

2020年オリンピック・パラリンピック大会
に向けた多言語対応協議会

道路分科会

多言語対応 取組方針

【歩行者系】

平成26年11月

各実施者は、「国内外旅行者のためのわかりやすい案内サイン標準化指針（歩行者編）」を踏まえ、地域の状況に応じて、表示内容の充実や観光案内サイン類の整備に努める。

道路分科会で検証した、以下の事項について、現在改訂作業中の「案内サイン標準化指針（歩行者編）」への反映を図っていく。

- ①. 使用言語は、日本語・英語の2言語表示を基本とし、日本語・英語以外の言語を表示する際は、地域や施設の特性及び視認性を考慮する。
- ②. 新たに追加された「観光案内サインの主地図に表示することが望ましい情報（空港（航空旅客ターミナル）、文化施設（美術館、博物館）等）」の有効である。
- ③. 外国人が目的地まで歩いて移動する際の情報として、目的地までの距離表示が有効である。
- ④. 誘導サインの形状は、情報の見やすさ、理解しやすさの点で矢羽根型が効果的である。
- ⑤. 外国人の移動の案内性向上のため、「主要地点」や「道路の通称名」を表示する道路案内標識と観光案内サイン類との配置の連携を図ることが重要である。
- ⑥. 観光案内サイン類の設置場所は、目的地の入口、分岐点や交差点等、また、直線道路でも一定の間隔で設置することが望ましい。
- ⑦. 施設等の名称は、道路標識適正化委員会東京都部会で決定した、「東京都内の英語対訳共通ルール及び対訳表」に準じて、統一的な表記に配慮する。

①観光案内サイン類に表示する言語

使用言語は、日本語・英語の2言語表示を基本とする。日本語・英語以外の言語を表示する際は、地域や施設の特性及び視認性を考慮する。

[解説]

多言語対応協議会における多言語対応の基本方針の中で、言語対応の考え方は、「日本語+英語及びピクトグラムによる対応を基本としつつ、需要、地域特性、視認性を考慮し、必要に応じて、中国語・韓国語、更にはその他の言語も含めて多言語化を実現する」としている。

外国人を対象としたアンケート調査の結果においても、観光案内サイン類に限られたサイズの中では「優先して案内表示すべき施設であっても、多言語表示ではなく英語のみの表示でも構わない」、「対象とする地域や施設の特性に応じて、多言語表示の必要性を判断すべき」等の意見が挙げられた。

上記を踏まえ、使用言語は、日本語・英語の2言語表示を基本とする。日本語・英語以外の言語を表示する際は、地域や施設の特性及び視認性を考慮する。



図 2 言語表示の例



図 4 言語表示の例

②観光案内サインに表示することが望ましい施設やピクトグラム

新たに追加された「観光案内サインの主地図に表示することが望ましい情報（空港（旅客ターミナル）、文化施設（美術館、博物館）等）」は、表示することが有効である。

〔解説〕

外国人を対象としたアンケート調査では、「標準化指針〈中間まとめ〉」に新たに追加された「観光案内サインの主地図に表示することが望ましい施設情報・ピクトグラム」の中で、空港（航空旅客ターミナル）、文化施設（美術館、博物館）等の情報ニーズが高いことを確認するとともに、施設情報やピクトグラムの充実の必要性に対して一定の評価を得た。

③目的地までの距離情報の表示

観光案内サイン類にて目的地までの移動を案内・誘導する際には、距離情報の表示を用いることが有効である。

国内他都市で設置された観光案内サイン類を見ると、目的地までの距離を表示する案内方法と、目的地までの歩行時間を表示する案内方法が存在している。

外国人へのアンケート調査の結果では、「外国人が目的地まで歩いて移動する場合、目的地までの距離情報、時間情報のどちらの情報の表示が有効か」という問いに対して、「距離情報」という回答が8割強を占めた。

その理由としては、「海外の観光案内サイン類では距離情報の表示を採用しているケースが多く、見慣れている表示方法である」、「人によって歩くスピードが違うので、距離情報の表示が良い」等の意見が挙げられた。

上記を踏まえ、観光案内サイン類にて目的地までの移動を案内・誘導する際には、距離情報の表示を用いることが有効である。



図 目的地までの距離情報を表示した観光案内サインの例

④誘導サインの形状

誘導サインの形状は、情報の見やすさ、理解しやすさの点で矢羽根型が効果的である。

[解説]

外国人へのアンケート調査の結果では、「誘導サインは、矢羽根型、短冊型のどちらの形状が情報を見やすい、理解しやすいか」という問いに対して、「矢羽根型」という回答が8割弱を占めた。

その理由としては、「自身の国でも見慣れた形状であるから」、「矢羽根型の方が見やすいから」との意見が挙げられた。

上記を踏まえると、誘導サインの形状は、情報を見やすさ、理解しやすさの点で矢羽根型が効果的である。

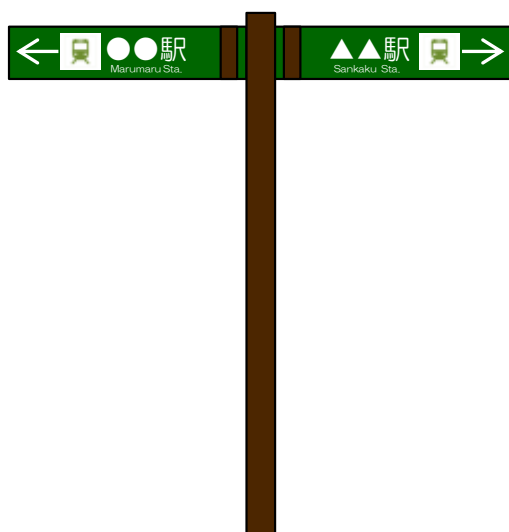


図 矢羽根型の誘導サインの例



図 短冊型の誘導サインの例

⑤道路案内標識と観光案内サイン類の連携

「主要地点」や「道路の通称名」を表示する道路案内標識と観光案内サイン類との配置の連携を図り、外国人を目的地まで円滑に案内・誘導することに努める。

[解説]

「主要地点（114の2-A、2-B）」、「道路の通称名（119-A、B）」を表示する道路案内標識は、主に車両に向けた案内を目的として設置している。

外国人へのアンケート調査の結果では、「主要地点」や「道路の通称名」を表示した道路案内標識の情報は、外国人が目的地まで歩いて移動する際にも必要な情報か」という問いに対して、『必要』（「是非必要（70.4%）」、「どちらかといえば必要（18.5%）」）との回答が9割弱を占めた。

上記を踏まえ、「主要地点」や「道路の通称名」を表示した道路案内標識と観光案内サイン類との配置の連携を図り、外国人を目的地まで円滑に案内・誘導することに努めることが重要である。



図 道路案内標識と観光案内サイン類との配置の連携イメージ

⑥観光案内サイン類の設置場所、設置間隔の目安

観光案内サイン類は、目的地の入口、分岐点や交差点等、また、直線道路でも一定の間隔設置することが望ましい。

[解説]

外国人へのアンケート調査の結果では、「目的地まで歩いて移動する際に、観光案内サインや誘導サインが概ね何m間隔で設置されていると、不安を感じることなく移動できるか」という問いに対して、国籍を問わず「主要な交差点、分岐点、曲り角などへの適切な設置」、「直線道路ならば 500m程度の間隔」等の意見が寄せられた。

上記を踏まえると、観光案内サイン類は、目的地の入口、分岐点や交差点等に設置することが望ましい。また、直線道路の場合は、歩行者が不安に陥らないよう、概ね 300m～500mに 1箇所程度の間隔を目安として設置することが望ましい。

⑦統一的な表記

施設等の名称は、道路標識適正化委員会東京都部会で決定した、「東京都内の英語対訳共通ルール及び対訳表」に準じて、統一的な表記に配慮する。

[解説]

東京都内の道路案内標識は、道路標識適正化委員会東京都部会で決定した、「東京都内の英語対訳共通ルール及び対訳表」に基づき、今後、統一的な表記に努めていく。

観光案内サイン類に表示する施設等の名称に関しても、「東京都内の英語対訳共通ルール及び対訳表」に準じて、統一的な表記に配慮することが必要である。